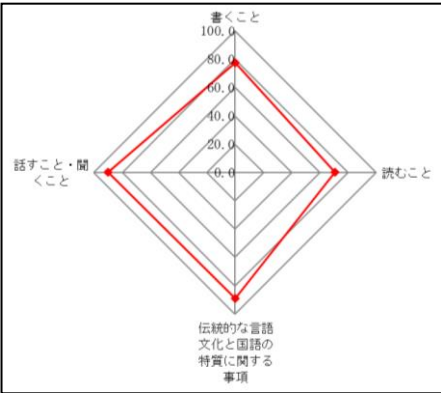


指導方法等の改善計画について〔国語科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

○ 平均正答率（全体） 84.5%



本年度の結果について

○ 全体的な傾向
全体の正答率は 84.5%である。全 14 問中全て正解した生徒の割合は 24.1%，13 問正解した生徒の割合は 27.6%であり，これだけで全体の半数を超えている。問題形式別にみると，短答式の正答率が 95.3%と最も高く，次いで記述式（80.2%），選択式（78.2%）となっている。選択問題よりも記述問題の正答率が高いことから，本学年の生徒には，「書く力」が定着していると言える。領域別にみて最も正答率が低いのが「読むこと」の 70.7%で，最も高い「話すこと・聞くこと」に比べ約 20%低くなっている。問題別で最も正答率が低かったのは「読む能力」の選択式の問題で，正答率が 65.5%だった。一方で，無解答率は 0.9%で，昨年度の 2.6%と比較しても大幅に減少している。以上のことから，全体的に学力は定着しており，問題を解くことに関しても意欲的であるということが言える。

重点課題 全国学力・学習状況調査

【課題】

最も正答率が低かったのは，接続詞の働きを適切に把握し，文章の展開に即して内容を捉える問題だった。「逆に」という接続詞が，何と何を比較して「逆」なのかということを選擇する問題であるが，比較の対象となる二つの項目の両方を選べないと正解にはならない。この問題で正解を選擇できた生徒は 65.5%で，誤答のうち，19.0%と最も多かったのが，片方は正解だが，もう片方が適切でない選択肢だった。誤答の原因として考えられるのは，「逆に」という接続詞の前後に配置された二つの項目を，そのまま解答として選んでしまい，「逆」という言葉の意味を踏まえ，二つの項目が逆になっているかどうかということ自分で検討することができていなかったということである。これらのことから，「接続詞＝直前の語句と直後の語句の関係を示すもの」ととらえている可能性が考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【改善法】

接続の関係については，これまでの学年でも課題となっており，接続詞の役割を考えた上で文章の展開を予測しながら，論理的に文章を読む力がなかなか定着していないということが言える。1 学期にも，説明文を取り扱う際に接続詞に重点を置いた授業を行ったが，接続詞「だから」を「なぜなら」に変えた場合，原因と結果の順序は逆になるということの理解も難しかった。実生活で「だから」や「なぜなら」を問題なく使用できていても，それらの役割を客観的にとらえることができない。そこで，短い文章から接続詞の役割を把握する練習を繰り返し，実際の説明文に应用させる授業を展開していきたい。また，朝読書の時間に，週に数回視写を取り入れていく。接続詞が使われている文章を写すことにより，接続詞の効果的な使い方や，接続詞を用いてどのように話を整理するかということを学ぶ。また，日々の日記を書く際も，指定された接続詞を用いて短い文章を書くという取組を行い，作文等の長文を書く際に生かせるようにする。

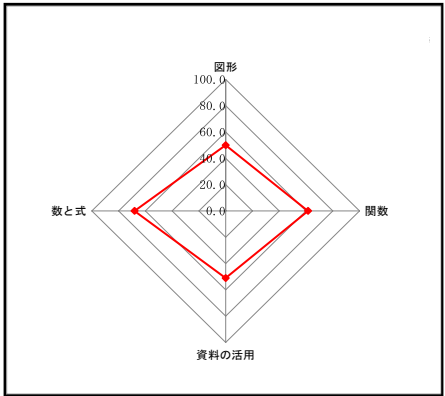
【全国学力】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 学期中間試験	2 学期期末試験		学年末試験		
目標値		68%	70%		75%		
実施後数値		64%	88%		78%		

指導方法等の改善計画について〔数学科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

○ 平均正答率(全体) 57.4%



本年度の結果について

○全体的な傾向
正答率は、本校 57.4%であり、昨年度の 58%を下回った。
領域別に見ると、数と式は 68.1%、図形は 50.0%、関数は 61.5%、資料の活用は 51.1%である。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は、関数、資料の活用の領域の正答率が、全国、広島県より上回っていた。しかしながら、簡単な連立二元一次方程式を解く問題や、証明の根拠として三角形の合同条件を書く問題は全国平均より 10p 以上下回っていた。小テストを実施し、定着を図った結果、今年度の春休み明けテストでは、連立方程式の正答率は 74.7%、三角形の合同条件の正答率は 67.2%と昨年度の全国学力学習状況調査の結果を上回った。

重点課題 全国学力・学習状況調査

【課題 1】 8 (1)

代表値の書かれた表から、待ち時間の範囲を求める問題《 正答率 18.1% 》

【課題 2】 8 (3)

度数分布表より、相対度数を用いて主張の理由を説明する問題《 正答率 42.2% 》

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題 1】
最小値から最大値を答えている生徒が 45.7%おり、数学的用語としての範囲を日常生活での範囲ととらえてしまっている。用語の意味を理解しておらず、普段使う言葉だからこそ範囲の意味を徹底させなければならない。最小値や最大値、平均値、最頻値などの代表値も含め、範囲や階級、階級の幅、階級値など様々な用語を確実に理解させるために、定期試験に資料の活用の単元の問題を出題する。

【課題 2】
相対度数を分数で表している生徒が多かった。また、資料を読み取り、何を意図しているか理解できていない生徒もいた。まずは、相対度数を確実に表すことができるように復習をし、小テストを実施し、定着させる。そして資料が出てくる問題は 3 回読んで問題に取り組ませる。何を意図しているのかを問う発問を授業内で行う。

【全国学力】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 学期中間試験	2 学期期末試験		学年末試験		
目標値		課題 1 30%	課題 1 50% 課題 2 50%		課題 1 60% 課題 2 70%		
実施後数値		課題 1 27.1%	課題 1 60% 課題 2 32%		課題 1 77% 課題 2 55%		